

第1学年 英語科学習指導案

学 級 1年A組（男子12名 女子11名 計23名）

指導者 教諭 佐藤 幸雄

1 単元名 1年 PROGRAM 8 *Origami*

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、日本を代表する文化である折り紙を題材としており、生徒が折り紙の楽しさと珍しさに気づき、それらを外国の人たちに伝えることができるような機会にしていきたい。また、イギリス文化について学習してきた前課との比較もできるため、改めて日本文化に対する関心を高めるとともに、他国の文化や生活を尊重する態度を育成していきたい。さらに、学習指導要領の言語活動のイ 話すことの(イ)「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること」に加え、エ 書くことの(イ)「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと」に関連させながら指導していきたい。

言語材料は能力を表す助動詞 **can** を肯定文、否定文、疑問文で使用できるようにすることと、手段・方法をたずねる疑問詞 **how** を使用できるようにすることである。**can** の肯定文、否定文、疑問文の使い方を学習することにより、生徒たちは「自分や相手ができる」ことが表現できるようになることで自分自身や他人を紹介したり、ものについて述べたりするときに、より詳しく表現ができるようになる。

(2) 生徒観

明るく元気の良いクラスで、英語学習への興味・関心も高い。近年の小学校での外国語活動導入以来、言語活動とりわけ「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動には抵抗がなく、喜んで取り組む生徒が増えており、本学級もその例に違わず活発である。反面、個人差が出始めており、個人指導を要する生徒も数名見られる。概して男子は言語活動に活発であるが、女子は落ち着いた取り組みをする。しかし、1学期末テストでは女子が男子を約12点ほど上回っており、男女差が大きくなってきている。これは総じて予習や単語練習等のいわゆる「書くこと」を女子は好きであるが、男子は抵抗を示す傾向にあることが大きく考えられ、その面の改善も課題である。

(3) 指導観

比較的会話によるコミュニケーションが容易な言語材料であり、文法事項の説明は最小限に行いコミュニケーションに多くの時間をかけて、会話練習の中から定着を図りたい。また、自己や他人の事柄について、「～できる」という表現を使いこなすことができるように十分な筆記練習も行っていきたい。最終的には書いて表現できるようになることを目標に考えている。

(4) 自己肯定感を持たせるための交流タイムの位置づけ

本時における交流学习は、対話活動やゲームによるやり取りなどで自分の表現が相手に通じたかどうかを確かめることによって、自己肯定感を高めさせたい。

3 単元の目標

- (1) 自分や相手ができること（できないこと）を表現する。
- (2) 交流学习において、間違えることを恐れずに話す。
- (3) 助動詞 **can** を用いた文の構造を理解する。
- (4) 疑問詞 **how** を用いた文の構造を理解する。

4 指導計画

時間	学習活動（全6時間）	【交流方法及び評価方法等】
1	・ 大介のスピーチの仕方と内容を理解する ・ 助動詞 can の文の構造を理解する	○ 友人の話聞く ・ 観察 ・ 自己評価 ・ シートの評価 ・ 後日ペーパーテスト
2	・ can を使って、「できること」と「できないこと」を伝える	○ 対話 ・ ワークシート ・ 観察 ・ シートの評価 ・ 後日ペーパーテスト
3 本時	・ Can you ~? を用いて相手が「できること」を尋ねたり、適切に応答したりする	○ 対話 ・ 観察 ・ シートの評価
4	・ How ~? を用いて「どんなふうに~しますか」とやり方を尋ねたり答えたりできる ・ 疑問詞 how を用いた文の構造を理解する	○ 対話 ・ 観察 ・ シートの評価 ・ 後日ペーパーテスト
5	・ 大介がマイクとウッド先生の会話を理解する	○ 対話 ・ 観察 ・ シートの評価
6	・ 自分や相手ができること（できないこと）を表現する	○ 対話 ・ 観察 ・ 後日ペーパーテスト

5 本時の学習

(1) 目標と交流

【目標（学習課題）】	【交流の方法等】
can を用いた疑問文を使い、相手のできることについて尋ねたり、適切に応答したりする	・ 相手との対話活動 ・ 理解できたかどうかをお互いに確認する

(2) 展開

段階	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 ◎評価規準
導入 10	1 あいさつ 2 Warm-up ・教科書で既習事項の確認をする ・ペアで対話活動を行う 3 課題を把握する	<ul style="list-style-type: none"> ・間延びしないようにスピードに注意させる ・大きな声で行わせる
	課題 「友達のできることを聞いて、1 Aのオンリーワンを見つけよう」	
展開 30	4 文法の説明を聞く 5 練習（教科書 p.80） 6 言語活動 ① ペアで対話練習 ② クラスでアクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけずに行う ・ペアで対話練習をさせる ◎友人との対話活動に自ら進んで、間違いを恐れずに話している。 ・クラス全体でアクティビティ ◎自分や相手ができること（できないこと）を伝えたり尋ねたりしている。
	交流 can を使った文を用いて対話の活動を行う（伝え、理解し合う交流）	
終末 10	7 振り返り 8 次時の予告を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、自分の言葉でまとめさせる

(3) 本時の評価規準

観 点	評 価 規 準	見取りの方法
関心・意欲・態度	友人との対話活動に自ら進んで、間違いを恐れずに話している。	・間違いを恐れずに楽しそうに相手との対話に取り組んでいるか。
表現の能力	自分や相手ができること（できないこと）を伝えたり尋ねたりしている。	・しっかりと言いたいことが相手に理解されているか。また、応答できているか